

# 西濃農林事務所の普及活動状況

平成26年8月28日現在

## 今月の重点活動

### ■新規就農者 **西濃地域（海津）就農支援会議の開催**

今年度に県就農支援センターで研修し、来年度就農を目指す4名の研修生を円滑に就農に導くため、7月31日（木）に標記会議を開催した。

第2回目の開催となる今回は、県就農支援センターから研修生の研修状況について報告を受けた後、就農候補地の選定状況についての情報交換を行った。借入れ可能候補地それぞれについての条件などを個別に検討し、賃借料の基準の検討と合わせて、トマト部会員の事例なども再度収集していくこととなった。研修状況の報告では、研修生は4名とも元気で意欲的に取り組んでおり、トマトの定植へ向けての作業を行っているとの報告があった。

会議ではさらに就農計画や補助事業の活用につながる事業費の根拠となる施設等の建設への流れについても確認を行った。今後も関係機関と役割分担をした中で新規就農者に対する支援を進めていく。



【就農支援会議での検討状況】

## 活力ある新産地づくり

### ■ブロッコリー **ブロッコリー育苗始まる**

ブロッコリー育苗が各部会で始まっている。今年は年内出荷を主体とするため、播種日が昨年と比べ1週間前進化している。西濃地域では、ブロッコリー栽培農家が自ら育苗も行うほか、個人で育苗できない農家のために、部会員で共同育苗を行う、JA職員が育苗を行う又は花農家や法人に育苗を委託する部会など様々な形態で育苗が行われている。

農業普及課は育苗の注意点や防除をまとめた資料を配布し、初めて育苗を行う農家を重点的に巡回指導する等の支援を行っている。



【播種作業の様子】

## 売れる農畜産物づくり

### ■大豆 **大豆安定生産の推進**

西濃農林事務所管内の大豆（フクユタカ）の播種は、6月25日より海津市から始まった。当初は梅雨の合間に播種が行われたが、7月下旬に天候が安定し、播種作業ピークは7月20日以降となり月末までにほぼ終了した。管内の播種面積は約1,700haである。

今年大豆の開花期は、6月25日の播種で8月15日頃、7月1日の播種で8月19日頃、7月6日の播種で8月20日頃となり、平年よりやや遅めで生育している。また、8月10日の台風11号の接近、8月17日の大雨等気象の影響を受け、生育は平年より悪い。

海津市では8月5日～13日に摘心作業を行った。作業を実施したのは、6月25日～7月1日に播種したほ場で、今年摘心した面積は約55haとなった。当初予定では約130haを摘心する計画であったが、8月上中旬の長雨のため予定どおり作業を進めることができず、大豆も開花期を過ぎていたため、それ以上の摘心は中止となった。

また、普及課は農業技術センターと連携し、養老町においてアサガオ、ホオズキ等帰化雑草対策として、除草剤試験の展示ほを設け、播種時の土壌処理剤と生育時の畦間処理について検討していく予定である。

### ■きゅうり **黄化えそ病対策研修会及び土壌診断説明会**

8月1日に海津胡瓜部会黄化えそ病対策研修会及び土壌診断説明会が開催された。黄化えそ病対策研修会では、農業技術センター環境部職員を講師に招き、薬剤の感受性、天敵スワルスキーカブリダニの活用のコツ等について説明をうけた。また、土壌診断説明会では、農業普及課から土壌診断結果に基づく適正な施肥について説明した。

### ■下宮青果部会協議会 **下宮版GAPの内部監査を実施**

7月29日に神戸町下宮青果部会協議会で取り組んでいる下宮版GAPの内部監査を実施した。協議会役員、JA下宮支店担当者、農業普及課が8班に分かれて全会員宅を巡回し、農薬の保管状況、動噴の洗浄状況など17項目について確認した。ほとんどの項目で昨年比べて「できた」の割合が高くなり、GAPの取り組みが会員に浸透してきていた。監査結果について8月26日に全会員を対象に説明会を実施する予定である。

### ■なし **朝市でなしの即売会**

8月17日の「芭蕉元禄朝市」に大垣市内2つのなし組合が参加し、なしの即売を行った。ぎふクリーン農業ののぼりを立て、消費者にパンフレットを配布し、大垣の安全・安心ななしをPRした。

今年は6月の少雨の影響、日射量が多かったこともあり、高糖度のなしとなった。3玉入り1パック500円で、225パックが用意されたが、販売開始前からなしを買い求めに来る客が列を作り、20分ほどで売り切れる盛況ぶりであった。



【なしの即売会】

## 戦略的な流通・販売

### ■6次産業化の推進

#### **安八町農産加工運営委員会「26年仕込み梅干し販売開始」**

安八町農産加工運営委員会梅部会では、7月23日から土用干しを開始し、天候を見ながら順次作業を行っている。干しあがったものはパック詰めを行い7月末から販売が開始された。安八温泉、JAにしみのファーマーズマーケット他イベントにて販売され、価格は昨年度と同価格だが、内容量の見直しが行われた。



【土用干し中の梅】

## 多様な担い手の育成・確保

### ■担い手育成 **集落営農の法人化支援**

神戸営農経済センターは担い手農家を対象に第2回営農連絡会議を開催した。主な研修内容は、農機具等の傷害保険、農地中間管理機構、大豆の被害管理、集落営農の法人化で、農業普及課では集落営農の法人化について説明を行った。今後、集落営農単位での研修会要請があれば対応していく。



【営農連絡会議】